

②地方創生推進交付金事業

以下の2事業は、石川県が事業主体となって広域的に事業を実施しているものです。取り組んだ事業概要及び評価内容は別添のとおりです。

資料2-1 施策評価シート

石川の食文化と世界農業遺産を活用した6次産業化推進事業

この事業の概要としましては、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」が育む多種多様な特色ある食材のブランド化等を進め、外食産業やコンビニ等の中食市場、海外市場での販路を開拓するとともに、既存農家の6次産業化や料理人や起業家の移住を後押しすることで、農家民宿や農家レストランの開業を促進し、観光客を呼び込むことで地域内での消費を拡大する仕組みをつくり、石川への人の流れを生み出すものです。

資料2-2 施策評価シート

観光地域づくりに向けた石川版DMO形成推進事業

この事業の概要としましては、石川県と県内全19市町、民間事業者等が一体となり、行政、宿泊施設、交通事業者、商工業者、飲食業者、地域住民など県内の幅広い関係者の合意形成を図り、「(公社)石川県観光連盟」を主体とした日本版DMO候補法人の観光庁への登録に向けて進める体制を構築するものです。

※ DMOとは、観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

能登町創生総合戦略・施策評価シート(推進交付金事業)

◇基本事項

戦略	1	能登の里山里海を活かし、人材の育成と安定した雇用ができる「しごと」をつくる
具体的な施策	①	農林水産業の「稼ぐ力」を引き出し、その波及を全産業へ
事業名	石川の食文化と世界農業遺産を活用した6次産業化推進事業	
担当課	農林水産課	

◇事業の目的

世界農業遺産の認定を活用して「能登の里山里海」を未来へ引き継ぐための取組を行う。 世界農業遺産活用実行委員会の構成: 県・能登4市5町・農林漁業・商工・観光団体

◇事業の内容

地域における利活用・保全の取組に対する支援の強化と、国内認定地域との連携による首都圏等での取組強化、TV番組タイアップ事業による情報発信を実施し、「能登の里山里海」の魅力や取組を学ぶ体験プログラムの実施や、世界農業遺産認定地域間の若手実践者交流会を開催する等、世界農業遺産への理解促進を図った。

【評価(Check)】

◇成果の状況

(R2年3月末時点)

	KPI (重要業績評価指標)	単位	目標年月	現状値 (基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
指標で表す成果	農林水産業新規就業者数(累計)	人	32.3	—	20	54	270%	a
指標で表せない成果	佐渡・岐阜との子ども交流を実施したことで、能登町の将来を担う子どもたちの世界農業遺産に対する認識が深まった。また、大学生による小学生を対象とした里山・里海に関する特別授業を実施した。 ラグビーワールドカップ2019日本大会にあわせて成田空港で「世界農業遺産プロモーション」を実施したほか、国内の認定地域と連携した共同PRや若手農業実践者の交流会を開催した。							

※評価基準 [a:100%以上、b:85%以上100%未満、c:70%以上85%未満、d:55%以上70%未満、e:55%未満]

◇総合評価

評価	理由
B	認定地域内を対象にした里山・里海文化の継承や国内認定地域との連携による首都圏等での共同PR、「能登」の一品の認定・普及による魅力発信など様々な取り組みが行われているが、能登地域の本質的な価値や核となる理念を見極める必要がある。里山・里海の豊かな食文化、地域通貨も含めた資源を循環させる取り組み、多様な生産活動によるリスク管理など、個々の取り組みを繋げるようなシステムづくりが弱い。

※評価	理由
A	目標等を達成し(達成見込みであり)、成果も上がっている。(成果が上がることは確実である)
B	目標は概ね達成され(達成見込みであり)、成果も上がっていると認められるがいくつかの課題も見受けられる。
C	目標等の達成(達成見込み)は十分と言えず、成果を上げるためには改善の余地を多く残している。
D	目標等の達成(達成見込み)には程遠い状況であり、成果を上げるためには抜本的な見直しが必要である。

【改善・見直し(Action)】

◇今後の方向性

方向性		改善・見直し等
①	① 現状のまま継続する	世界農業遺産の地で育まれた農産物や加工品のブランド化には地道な活動の継続が必要であるため、更なる掘り起こしやブラッシュアップに引き続き取り組んでいく。
	② 事業の内容を見直して継続する	
	③ KPIを見直して継続する	
	④ 事業を終了する	

能登町創生総合戦略・施策評価シート(推進交付金事業)

◇基本事項		
戦略	2	人と人の交流を深め、賑わいを創出し、能登町で暮らす「ひと」の流れをつくる
具体的な施策	①	能登町の魅力発信と体験による交流人口・能登町ファンの拡大
事業名	観光地域づくりに向けた石川版DMO形成推進事業	
担当課	企画財政課	

◇事業の目的
日本の原風景とも表現される世界農業遺産「能登の里山里海」における、能登地域固有の伝統的文化、景観、その継承に携わる関係者等の地域資源を活用し、能登地域の拠点であるのと里山空港を起点とする交流を促進することを目的とする。

◇事業の内容
県空港企画課と連携し、空港を拠点とした日本遺産「能登のキリコ祭り」、世界農業遺産「能登の里山里海」や能登の食の魅力等の自然、歴史、伝統文化を活用した旅行商品の造成支援および福利厚生のお会報誌「リロクラブ」や「女子旅プレス」によるPR活動支援等の誘客促進事業を展開。

【評価(Check)】

◇成果の状況		(R2年3月末時点)						
指標で表す成果	KPI(重要業績評価指標)	単位	目標年月	現状値(基準年度)	目標値	実績値	達成率	評価
		能登地区への入込客数	万人	31.12	693(26.12)	880	774	87.9%
	(H30数値を記載)R1数値は12月予定(※統計からみた石川県の観光)参照							
	のと里山空港の搭乗率	%	32.7	63.6(27.7)	62	61.8	99.6%	b
	実績値はR1.7.7~R2.7.6(17年目)の搭乗率							
	町内宿泊者数(年間)	千人	31.3	96(26)	101	97	96.0%	b
指標で表せない成果	のと里山空港の搭乗率に関して、令和2年2月末集計時点では前年度搭乗率71.2%を超える勢いで進捗していたが、令和2年3月以降に新型コロナウイルスの影響による全国的な外出の自粛や、午後便欠航の常态化等で搭乗率が大幅に急落、結果的に目標値を下回った。ただし、影響を受けるまでは前年度以上の搭乗率を着地点として期待出来ていたことから事業実施による成果は出ていたと見られる。今後は、新型コロナウイルスの収束後の需要を見据えて引き続き事業の実施を継続していくことが望ましいと見られる。							

※評価基準 [a:100%以上、b:85%以上100%未満、c:70%以上85%未満、d:55%以上70%未満、e:55%未満]

◇総合評価	
評価	理由
B	のと里山空港を起点とした交流促進について、新型コロナウイルスによる大幅な搭乗率減少以前は、主に首都圏利用と見られるANA747便・ANA750便の搭乗率が平均で80%以上の限界値に近い数値が見られ、ANA749便の利用に関しても首都圏客へ薦めており、平均搭乗率を70%近くまで上昇させることに成功している。 現在は、新型コロナウイルスにより大変難しい状況ではあるが、収束後の需要喚起を見据えて継続して事業を実施していきたいと考える。

※評価	理 由
A	目標等を達成し(達成見込みであり)、成果も上がっている。(成果が上がることは確実である)
B	目標は概ね達成され(達成見込みであり)、成果も上がっていると認められるがいくつかの課題も見受けられる。
C	目標等の達成(達成見込み)は十分とは言えず、成果を上げるためには改善の余地を多く残している。
D	目標等の達成(達成見込み)には程遠い状況であり、成果を上げるためには抜本的な見直しが必要である。

【改善・見直し(Action)】

◇今後の方向性

方 向 性		改 善・見 直 し 等
①	① 現状のまま継続する	事業実施による成果は見られるが、新型コロナウイルスによる影響も強く見られるため、状況を注視しながら継続して事業を行う。
	② 事業の内容を見直して継続する	
	③ KPIを見直して継続する	
	④ 事業を終了する	